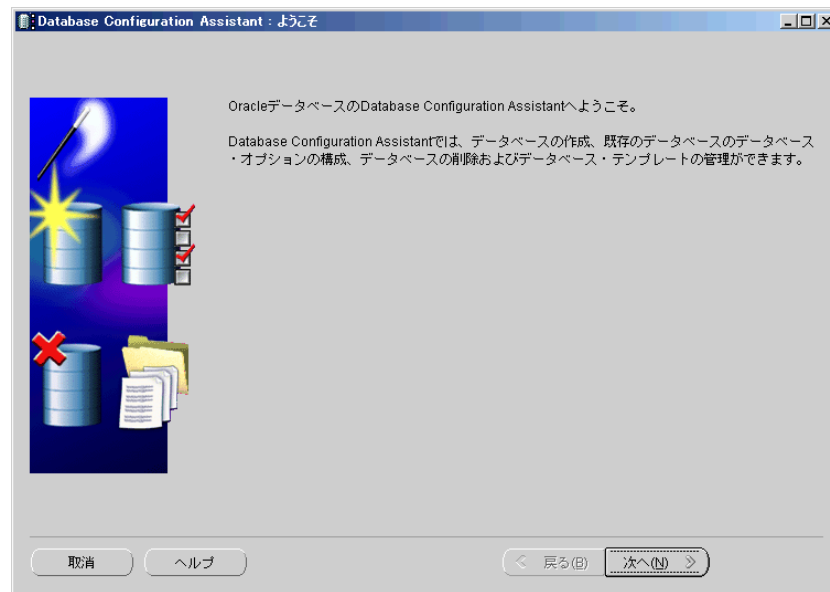


Oracle 10g (10.1.0)でのデータベース(SID)の作成方法

PDS で使用するデータベースの作成例を示します。以下の説明では、Oracle のソフトウェアが D:\Oracle フォルダ以下にインストールされているものとします。また、作成するデータベースの SID (データベース名)を“PDS”、データベースファイルを D:\Oracle\product\10.1.0\oradata フォルダ以下に作成するものとします。以下の作業は、データベースサーバに対して Administrator としてログオンした状態で行います。なお、各項目の設定値は、データ量やクライアント数等に合わせ調整が必要な場合があります。

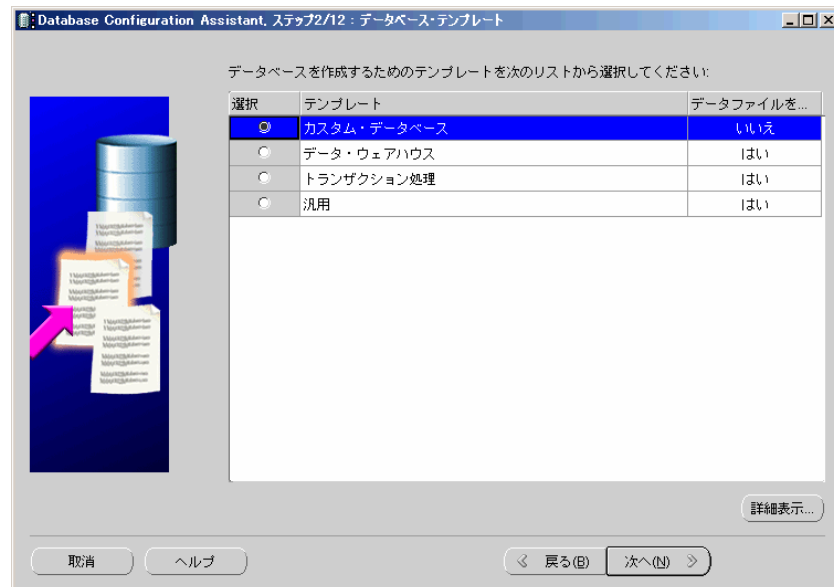
- 1) **スタート**メニュー → **すべてのプログラム** → **Oracle - OraDb10g_home1** → **Configuration and Migration Tools** → **Database Configuration Assistant** を起動します。
次へボタンを選択します。



- 2) データベースの作成を選択し、**次へ**ボタンを選択します。



- 3) カスタム・データベースを選択し、**次へ**ボタンを選択します。



- 4) **グローバル・データベース名**に対して作成するデータベースの名前を入力します。**SID** は**グローバル・データベース名**を基に自動的に入力されます。**次へ**ボタンを選択します。

Database Configuration Assistant, ステップ3/12: データベース識別情報

Oracleデータベースは、一般的に"name.domain"という形式のグローバル・データベース名で一意に識別されます。

グローバル・データベース名: PDS

データベースは1つ以上のOracleインスタンスによって参照されており、インスタンスはOracleシステム識別子(SID)によって、このコンピュータ上の他のインスタンスから一意に識別されています。

SID: PDS

取消 ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) >

- 5) Enterprise Manager がインストールされていない場合、以下のようなメッセージが表示されます。**次へ**ボタンを選択します。

Database Configuration Assistant, ステップ4/12: 管理オプション

i このマシンにセントラル・エージェントが存在せず、選択されたテンプレートにEnterprise Managerリポジトリが含まれていないため、Enterprise Managerを介した管理を使用できません。

Enterprise Managerを使用してデータベースを構成

データベース管理にGrid Controlを使用します

管理サービスの選択: エージェントが見つかりません

データベース管理にDatabase Controlを使用します

電子メール通知を有効にする

送信メール(SMTP)サーバー: _____

電子メール・アドレス: _____

日次バックアップを有効にする

バックアップ開始時刻: 02:00 午前 午後

OSユーザー名: _____

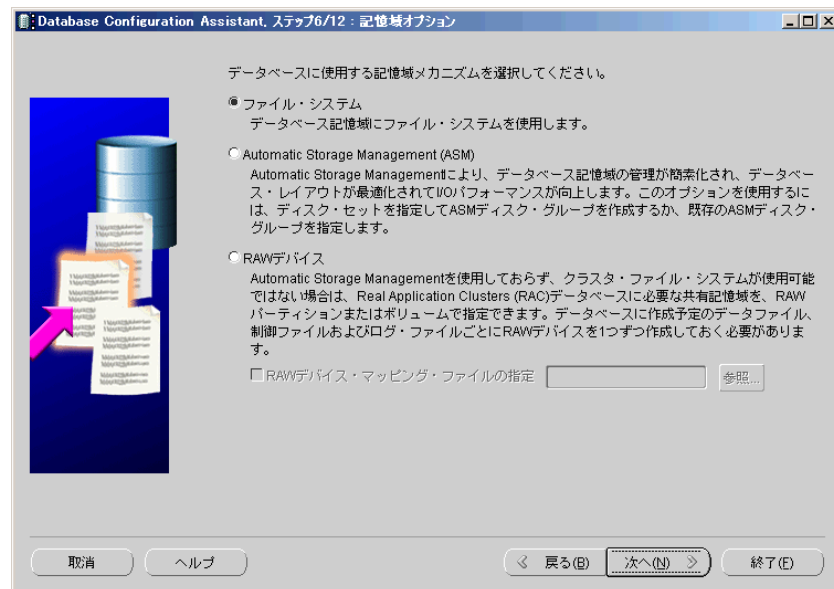
パスワード: _____

取消 ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) >

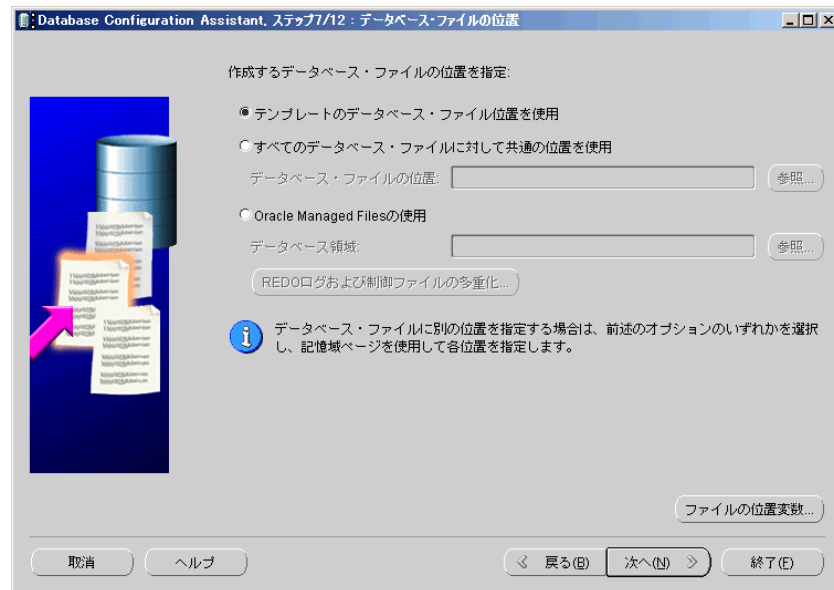
- 6) **別のパスワードを使用** オプションを選択し、**SYS** および **SYSTEM** に対してパスワードを入力します。**次へ** ボタンを選択します。



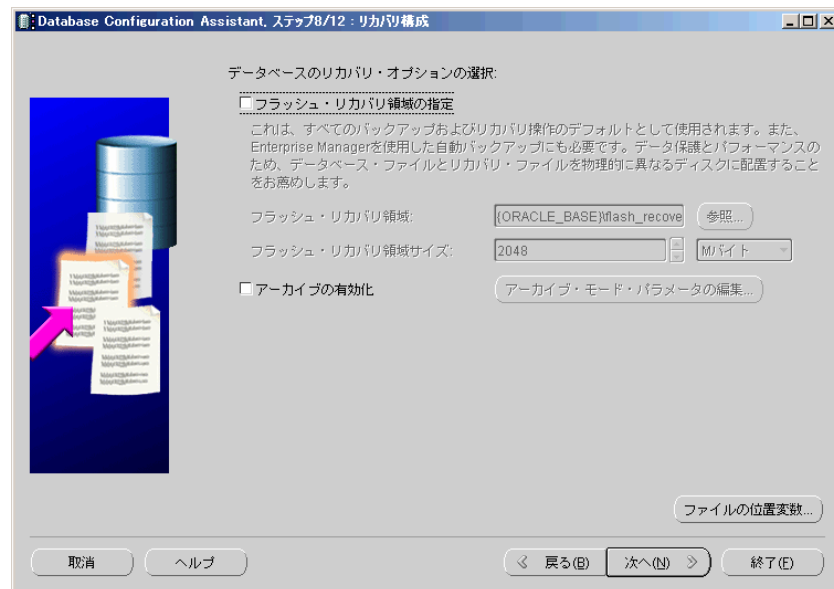
- 7) **記憶域メカニズムとしてファイル・システム**を選択します。**次へ** ボタンを選択します。



- 8) テンプレートのデータベース・ファイル位置を使用オプションを選択します。 **次へ** ボタンを選択します。



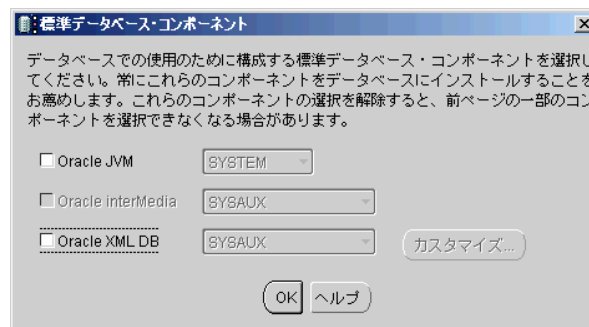
- 9) フラッシュ・リカバリ領域の指定オプションをオフに変更し、 **次へ** ボタンを選択します。



10) 各データベース機能のオプションを全てオフの状態に設定します。



標準データベース・コンポーネント ボタンを選択します。**Oracle JVM** および **Oracle XML DB** オプションをオフに設定し、**OK** ボタンを選択します。

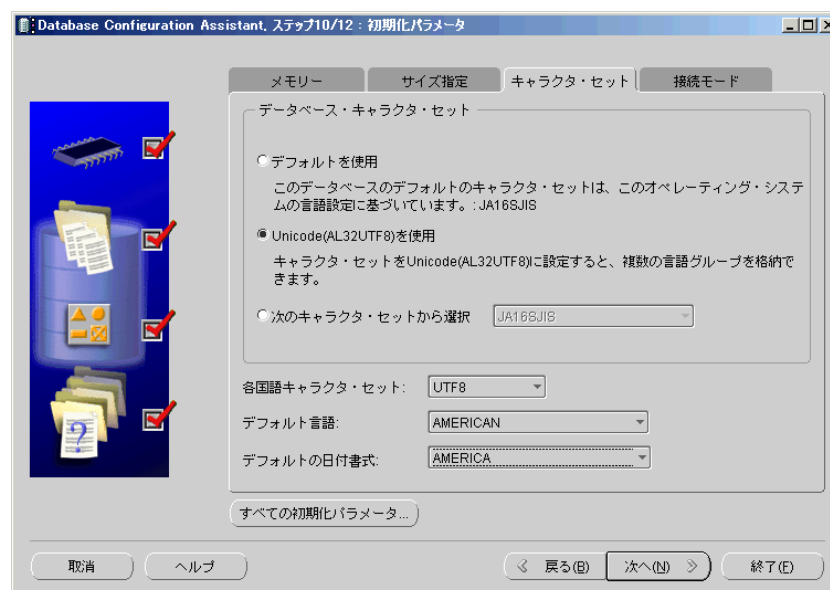


上記ステップ 9/12: データベース・コンテンツに戻り、**次へ** ボタンを選択します。

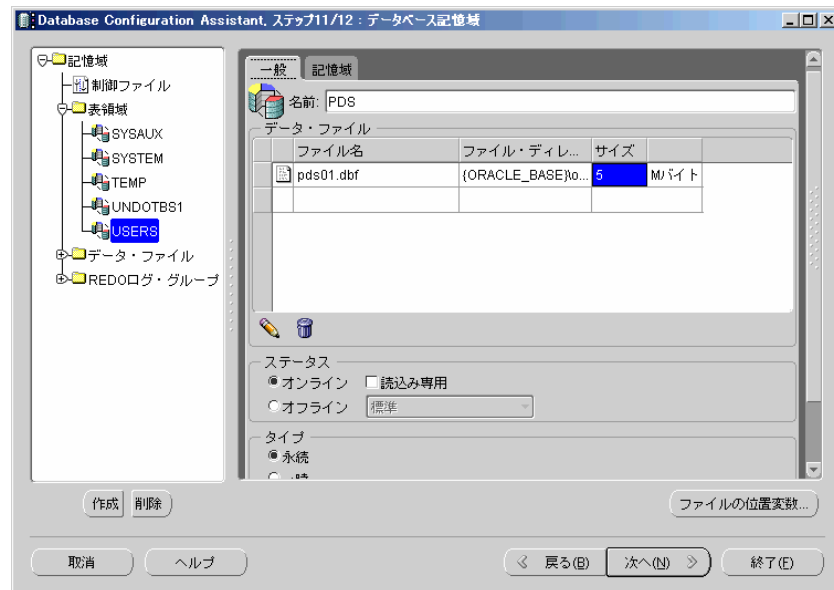
- 11) 初期化パラメータの**メモリー**タブでは、自動的に設定された**初期化パラメータ**設定値を使用します。**キャラクタ・セット**タブを選択します。



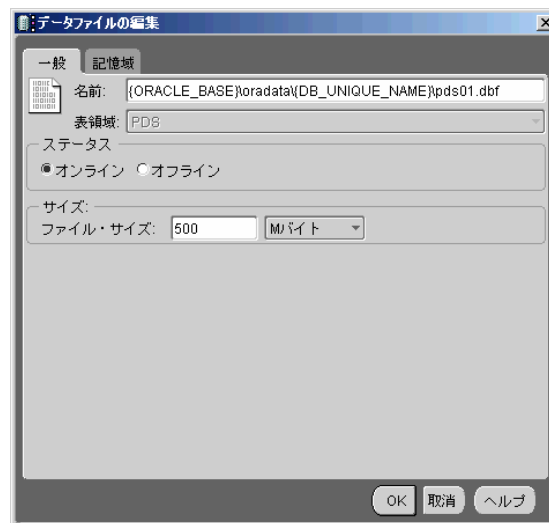
- 12) **データベース・キャラクタ・セット**から **Unicode(AL32UTF8)**を使用オプションを選択します。また、**各国語キャラクタ・セット**、**デフォルト言語**、**デフォルトの日付書式**から **UTF8**, **AMERICAN**, **AMERICA** を選択し、**次へ**ボタンを選択します。なお、2回目以降のデータベース作成時にデータベース・テンプレートを使用する場合でも、再度この設定を行う必要があります。



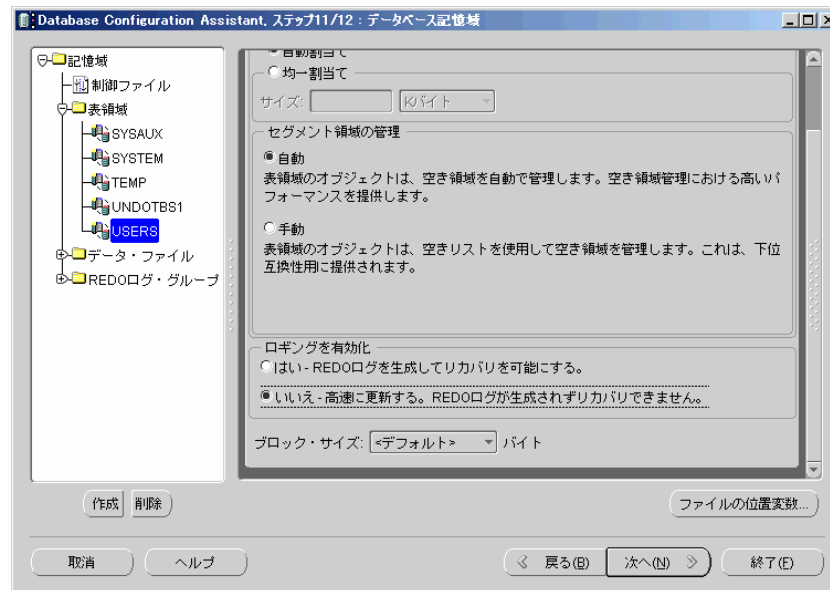
- 13) **USERS** 表領域の**名前**および**ファイル名**を変更します。**サイズ**の数値をダブルクリックします。



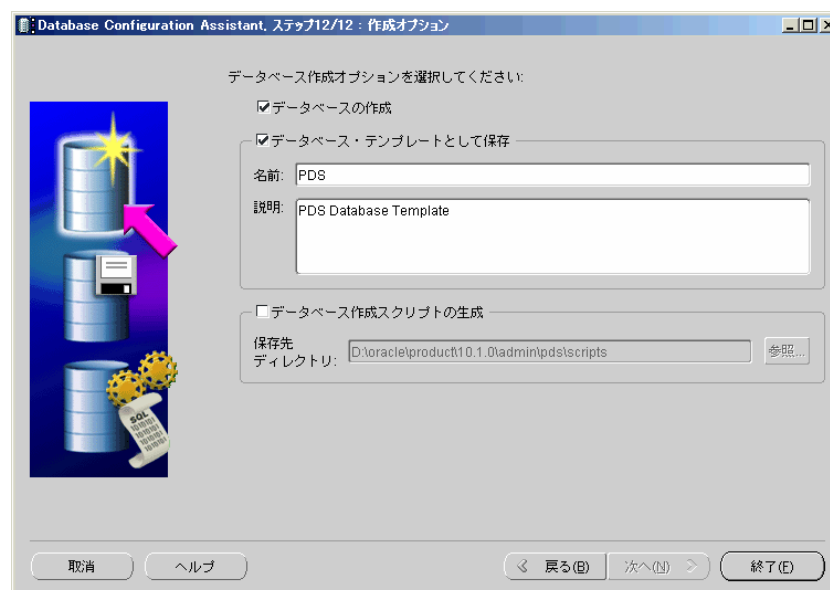
ファイル・サイズに対して **500** と入力し、**OK** ボタンを選択します。



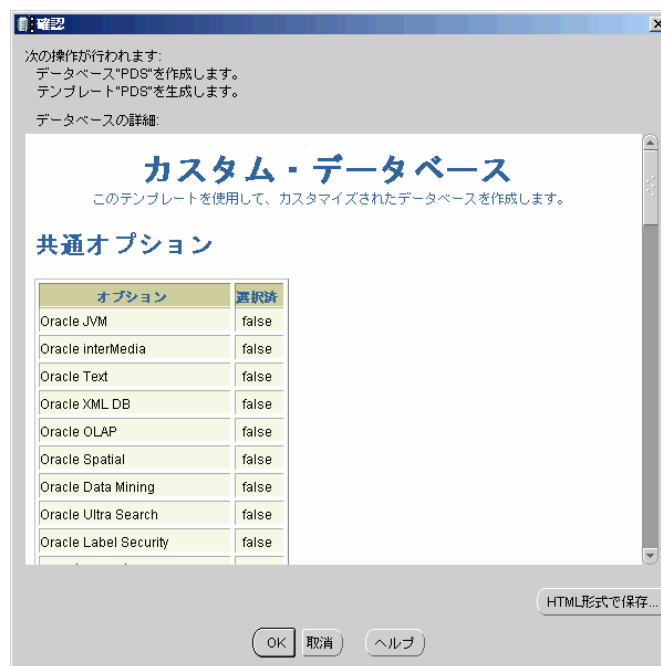
- 14) REDO ログによるリカバリが不要な場合は、**記憶域タブのロギングを有効化**オプションとして**いいえ**を選択します。**次へ**ボタンを選択します。



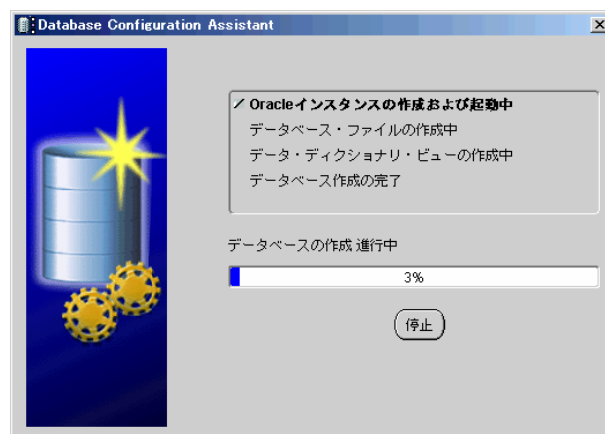
- 15) **データベースの作成**オプションをオンの状態に設定し、**終了**ボタンを選択します。なお、**データベース・テンプレートとして保存**オプションをオンの状態に設定しておくと、ここまでの手順で指定した各設定値を“**テンプレート**”として保存することができます。次回以降、Database Configuration Assistant によってデータベース作成を行う際の各設定値のデフォルトとして利用することができます。



- 16) データベース作成時の設定値が表示されます。内容を確認し、**OK** ボタンを選択します。

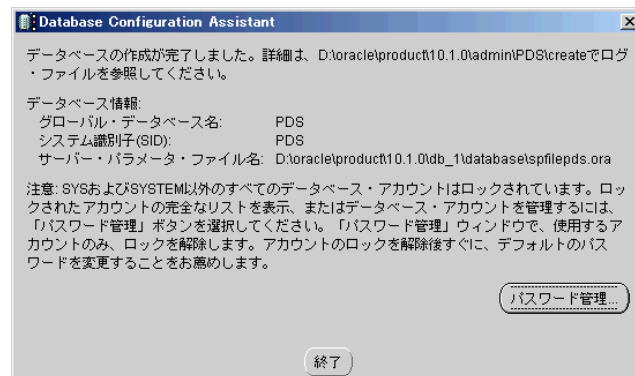


- 17) データベース作成処理が開始されます。なお、処理終了まで数十分必要となる場合もあります。



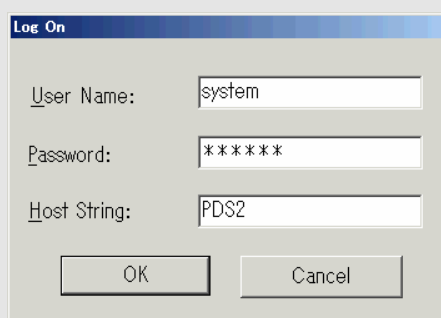
18) データベース作成処理が終了すると、以下のようなダイアログボックスが表示されます。

終了ボタンを選択します。



データベースユーザ作成等の操作には、**スタート**メニュー → **すべてのプログラム** → **Oracle - OraDb10g_home1** → **Application Development** → **SQL Plus** を使用します。また、コマンドプロンプト上で **sqlplus** と入力し、テキスト版の **SQL*Plus** を使用することもできます。

上記の手順でデータベース(SID)を作成すると、レジストリ **ORACLE_SID** にデータベース名が登録されます。この設定値は、**SQL*Plus** 等によるデータベース操作の対象として使用されます。複数の **SID** を作成した場合、ログオン時に **Host String** に対してデータベース名を指定することで、操作の対象とするデータベースを切り替えることができます。



テキスト版 **SQL*Plus** の場合、ユーザ名入力時に @ 文字に続けてデータベース名を指定することが可能です。また、**sqlplus** の起動を行う前に、環境変数 **ORACLE_SID** に対してデータベース名を指定することもできます。

```
コマンド プロンプト - sqlplus
Microsoft Windows [Version 5.2.3790]
(C) Copyright 1985-2003 Microsoft Corp.

C:\>sqlplus

SQL*Plus: Release 10.1.0.4.0 - Production on Mon Jul 25 18:03:22 2005

Copyright (c) 1982, 2005, Oracle. All rights reserved.

Enter user-name: system@PDS2
Enter password:

Connected to:
Oracle Database 10g Enterprise Edition Release 10.1.0.4.0 - Production
With the OLAP and Data Mining options

SQL> select name from v$database;

NAME
-----
PDS2

SQL> _
```

Active Directory サーバ(ドメインコントローラ)である Windows Server 2003 上でデータベース (SID)の作成を行う場合、Oracle Database 10g Patch Set Release 10.1.0.4 をインストールしておく必要があります。インストールが行われていない場合、データベース作成処理中に以下のようなエラーが発生し、以降のデータベース作成処理が正常に行われません。

